

◇ 貳 又 聖 規 君

○議長（松田謙吾君） 続いて、4番、貳又聖規議員、登壇を願います。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、会派みらい、貳又聖規でございます。通告に従いまして順次質問させていただきますが、その前に一言ご挨拶をさせていただきます。私は、さきの白老町議会議員選挙におきまして多くの町民の皆様からご支持、ご支援をいただき、白老町議会へ送り出させていただきました。町政の現状をわかりやすく町民の皆様にお伝えするとともに、小さな声も聞き取り、一人一人の町民の皆様の思いをしっかりと受けとめ、町政に届けてまいり所存でございます。大変責任重大であります。町民の皆様のご期待に応えられるよう誠実に尽くしてまいりたいと決意しております。初志貫徹、白老町発展のために一生懸命尽くしてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、通告に従いまして2項目6点について順次質問させていただきます。

1項目めは、少子高齢化対策についてでございます。本町は予想を上回る速さで少子高齢化の波が押し寄せる中、次の点についてお伺いいたします。

(1)、人口推移の状況についてお伺いいたします。

①、令和元年11月1日現在の総人口及び年齢3区分（年少人口・生産年齢人口・高齢者人口）ごとの人数、割合は。

②、白老町人口ビジョンの将来人口の推計値における2019年度の目標値と現状、現在の数値と比較してどうか。

③、平成28年から平成31年まで及び令和2年（見込み）の本町の高齢化率及び北海道内市町村における高齢化率の順位。

④、まちづくり町民意識調査（令和元年度）における定住意向の分析結果は。

⑤、少子高齢化対策について現状認識を踏まえたまちの今後の施策のあり方に対する捉え。

(2)、安心して子育てができる環境づくりについてお伺いいたします。

①、まち・ひと・しごと創生総合戦略、柱4、結婚、出産、子育てが誇れる地域づくりについて、出生数及び合計特殊出生率の状況と達成見込み。

②、まちづくり町民意識調査報告書（令和元年度）における子どもを産み育てやすい環境についての分析結果は。

③、保育園の入所率増加を初めとした利用者の状況についての現状認識は。

④、保育園の受け入れ側の課題の認識及び課題克服に対する手だてや施策についての町の考えは。

⑤、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる地域づくりを進めるに当たり、町としての具体的な方策は。

(3)、新たな人を呼び込む住環境施策についてお伺いいたします。

①、白老町空き家等対策計画における調査結果について、空き家化の予防策及び空き家活用策の考えは。

②、空き家の把握は今後増加が見込まれる移住者への住宅供給につながり、高齢者のひとり暮らし世帯の把握は将来的に空き家化対策が可能となると考えられることから、空き家バンクの設置と移住者のマッチングについてのまちの捉えは。

以上についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

[町長 戸田安彦君登壇]

○町長（戸田安彦君） 少子高齢化対策についてのご質問であります。1項目めの人口推移の状況についてであります。1点目の令和元年11月1日現在の総人口及び年齢3区分についてであります。総人口は1万6,651人、年齢区分は零歳から14歳までの年少人口が1,175人で全体に占める割合は7.1%、15歳から64歳までの生産年齢人口は7,993人で48%、65歳以上の高齢者人口は7,483人で44.9%となっております。

2点目の白老町人口ビジョンの将来人口の推計値と現状値の比較についてであります。第1期白老町人口ビジョンでは令和2年における総人口を1万7,221人と推計しており、11月1日現在の総人口は1万6,651人、その差は570人であることから、推計値と現状値において大きな乖離が見られます。

3点目の高齢化率及び道内市町村における順位についてであります。平成28年は40.4%、28位、29年は41.9%、22位、30年は43.8%、19位、31年は44.5%、16位となっております。令和2年については約45%で、順位は上がると見込んでおります。

4点目のまちづくり町民意識調査における定住意向の分析結果についてであります。定住したいと回答した町民の割合は54.3%、前回調査比9.2%減となっていることから、今後においてはまちの活力を高め、にぎわいと交流を生み出し、誰もが住み続けたいと感じてもらえるような魅力あふれるまちづくりに取り組んでいかなければならないと考えております。

5点目の少子高齢化対策に係る今後のあり方についてであります。本町の少子高齢化は加速度的に進んでおり、令和2年以降は生産年齢人口が老年人口を下回るものと推計しております。今後においては、人口減少の抑制に向けた対策や人口構造の是正に向けた人材誘致、交流施策等に取り組んでいかなければならないものと捉えております。

2項目めの安心して子育てできる環境づくりについてであります。1点目の出生数及び合計特殊出生率の状況と達成見込みについてであります。第1期白老町人口ビジョンでは出生数を年間100人とし、合計特殊出生率を1.27から1.40に上昇させることを基本目標として掲げております。令和2年3月見込みの出生数は64人、合計特殊出生率は1.27を下回るものと推計していることから、基本目標の達成は困難な状況にあります。

2点目のまちづくり町民意識調査における子供を産み育てやすい環境の分析結果につい

てであります。産み育てやすい環境にあると回答した町民の割合は18.8%、前回調査比2.5%減に対して、産み育てやすい環境にないと回答した町民の割合は35.2%、前回調査比3.7%増となっていることから、今後においては子育て環境整備の一層の充実に努めていかなければならないと考えております。

3点目の保育園の入所率増加を初めとした利用者の状況の現状認識についてであります。平成27年度と30年度の入所率を比較すると、零歳児は21.7%から52.8%で約2.4倍、1、2歳児は41.0%から65.6%で1.6倍、3歳児以上は86.5%から94.7%で1.1倍となっており、低年齢から就園する子供が増加しています。その背景には共働き世帯等がふえていることなどがあると認識しております。

4点目の保育園の受け入れ側の課題認識及び課題克服に対する手だてや施策についてであります。現在本町において待機児童は発生しておりませんが、0、1、2歳児を受け入れる際に必要な保育士の確保が容易ではないことが課題であると認識しております。保育士確保のためには、各園で求人募集するほか、町も人材育成、再就職支援、就業継続支援等を行い、総合的な取り組みを進めていくことが必要であるとと考えております。

5点目の若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる具体的な方策についてであります。公約に掲げているように、子育てサイトの構築や産後ケアの実施、中学生までの医療費助成の完全実施に向けてスピード感を持った事業展開と長期的な視点に立った切れ目のない子育て支援に努めてまいりたいと考えております。

3項目めの新たな人を呼び込む住環境施策についてであります。1点目の白老町空家等対策計画における調査結果、空き家化の予防策及び空き家活用策の考えについてであります。本年3月に計画を策定した時点での空き家数は315戸であり、うち今後の利活用が見込まれる家屋は、そのままの状態101戸、一部修繕108戸、大規模改修52戸と捉えております。また、空き家化の予防、活用策については、地域福祉、子育て、高齢者福祉、観光振興、芸術文化、人口減少対策など多面的に検討を行い、取り組んでいく考えであります。

2点目の空き家バンクの設置と移住者のマッチングについてであります。空き家バンクは程度のよい空き家の流通性を高め、空き家を移住希望者などにより入居家屋とする活用策の一つとなるものと捉えております。なお、町独自の空き家バンクはありませんが、北海道が管理運営する空き家バンクへの登録を推奨しているところであります。

○議長（松田謙吾君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時32分

---

再開 午後 3時45分

○議長（松田謙吾君） 休憩を閉じて、会議を再開いたします。

4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番(貳又聖規君) 4番、貳又でございます。それでは、再質問させていただきます。

まず、2点目の将来人口の推計値と現状との比較についてであります。その差が570名とありました。人口ビジョンでは見込めなかった減少要因はまずどのようなものでしょうか。

○議長(松田謙吾君) 工藤企画課長。

○企画課長(工藤智寿君) 推計値と乖離があるというご質問でございます。まず、実は人口ビジョンを平成27年に策定させていただきましたが、当時社会保障・人口問題研究所の推計値と差が出たというところに関しましては、大きく言うと推計値の中には3つのパターンといいますか、高位推計、中位推計、低位推計という人口の想定がございまして、中位推計が一般的に報道に出ているような数字という中身になってございまして、高位推計、低位推計につきましては国レベルでの人口の動態を示すということで、結果から申し上げますと中位推計で計画を当時しておりましたが、低位推計により近い数字になったのではないのかなと今の時点では押さえているところでございます。どうしてこの数字をとったかというのは、当然一般的に公表されている中位推計というものを使ったのですが、実は目標値という部分もございまして、より近づけるためにどうしていったら、こういう施策を打って人口減少の歯どめをかけていきたいというところの部分ではありましたが、結果的にはご承知のとおりこのような乖離が発生したというような状況になっております。

○議長(松田謙吾君) 4番、貳又聖規議員。

[4番 貳又聖規君登壇]

○4番(貳又聖規君) 4番、貳又でございます。さらに深掘りしてお聞きしたいのですが、少子高齢化、人口減少によるデメリットは行政分野の多岐にわたるものであります。特に本町の財政に大きな影響を与えるものであり、歳出面では高齢者人口の増加に伴い医療、介護等を中心に社会保障費が増加する一方で、歳入面では生産年齢人口の減少に伴って税収が低迷、減少する結果、さらに厳しい財政状況になると考えます。平成21年度の決算状況と平成30年度の決算状況、これは町税についての比較でございますが、平成21年度は町税が26億1,000万円であったところ、平成30年度は23億6,000万円と2億5,000万円の減となっております。まちの台所事情が本当に厳しくなっているということがわかります。そこで、お聞きいたしますが、この財政面の影響、これはよくわかるのですが、財政面のほかにどのような減少、デメリットに緊急的な対策が必要と捉えておられるのか、見解をお伺いいたします。

○議長(松田謙吾君) 工藤企画課長。

○企画課長(工藤智寿君) 人口減少に伴う社会的な、もしくは経済的な影響について私のほうから答弁させていただきたいと思っております。

何点か出てくるかと思っておりますが、まずは地域経済、地場産業の衰退ということでございます。生産年齢人口の減少においては地場産業を支える労働力の大幅な低下ということにもつながってくるものでございまして、当然地域の経済、地場産業に大きな影響及ぼすことが

懸念されるということがまず1点目でございます。それから、雇用問題、こちらについても労働市場における需給ギャップを拡大させる可能性がありまして、新規事業であったりですとか、我がまちでいうと象徴空間開設に伴う観光産業、事業拡大など、そういったニーズに対しての労働力の供給が難しくなるというところが1点。それから、先ほど財政のお話もございましたけれども、財政がさらに逼迫されることが懸念されまして、それがさらには町民サービスの低下につながるおそれがあるのではないかとという点。それから、社会的影響でいいますと町民の日常生活におけるサービス機能の低下です。行政サービスが低下することによって、安全で安心な日常生活の確保の部分ですとか、それから地域コミュニティの機能低下ということも懸念される。これは、当然地域における行事、イベント、集会など、そういった地域の社会といいますか、コミュニティがなかなか事業としての実施が難しくなるのではないかとという懸念。それから、商店街の衰退、人口減少することによって商店の経営者や商店街の来訪者が減少する、そういったことも加速していくのではないかとという懸念。それから、教育環境の変化ということもあろうかと思えます。要は年少人口の減少ですとか、そういったことによって教育環境が厳しい状況になって、さらにますます若い世代が転出するなど人口減少に拍車をかけることも懸念される。それから、若い世代の転出による人口減少の加速、こういったことで町民の生活環境ですとか、若い世代の結婚、出産、子育て環境が厳しくなっていくと、さらにそういう若い世代の方が転出するということも懸念されるといったようなさまざまな部分で町民に対してさまざまなことが懸念されるということが考えられるかと思えます。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。よく理解できました。一口に人口減少、少子高齢化と言っても、行政各分野に多岐にわたる。今後は、総合行政のあり方が必要になると感じております。

そこで、3点目の高齢化率の道内市町村における順位であります。北海道179の市町村で白老町の順位は平成28年は28位、それから平成31年は16位ということで12位もこのランクが上昇しているという状況でございます。この統計数値からも、本町は北海道の中にあっても少子高齢化が深刻な状況であるということがわかります。

そこで、5点目の少子高齢化対策に係る今後のあり方についてであります。生産年齢人口が減少すると当然ながら働き手が減ると、そして地域内の生産性は減少し、本町の経済活力も低下するというところで、先ほど工藤課長のほうからもご説明がございましたけれども、その中で答弁の中でも2020年以降は生産年齢人口が老年人口を下回るということが示されております。生産年齢人口の減少を食い止める施策、増加対策、これは優先度を持ちながら優先的に私は進めなければならないと考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） 今後の人口減少対策における取り組みといたしますか、そういった部分で答弁させていただきますと、先ほどの答弁のところともかぶりますが、今まで平成27年からまち・ひと・しごと創生総合戦略というものを、人口ビジョンを達成するためにそういう戦略を立てて、町としてさまざまな施策を打ってきました。ですが、そういった中でも課題はたくさんございますが、今第2期目のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定中でございます、少なからず人口減少はある程度受け入れなければならない部分はあるかと思えますけれども、歯どめをかけるといいますか、少し人口減少のスピードを遅くするような、そういった考えのもとで、これから今取り組んでいる中でやっていきたいと思えますし、また第6次の総合計画も策定中でございます。これは、第6次総合計画と、それから第2期の総合戦略を連動させた中できちんと検証しながら取り進めていきたいと考えてございます。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。人も風邪を引く前に予防対策が大事ですので、今企画課長がおっしゃったことはよくわかりました。ありがとうございます。

それでは、2項目めに行きます。安心して子育てができる環境づくりについてお聞きいたします。まず、1点目の出生数及び合計特殊出生率の基本目標が厳しいということはよく理解できました。

2点目のまちづくり町民意識調査の結果、こちらは前回よりもポイントが低調で、これは出生数にも反映しているのではないかなと私は考えます。答弁の中で今後において子育て環境整備の一層の充実に努めるということがありましたので、今回こちらについては質問いたしませんけれども、今後の改善策に私は期待するものでございます。

それに関連いたしまして4点目の保育園の受け入れ環境についてであります。こちらは答弁でもありましたが、保育士の確保が課題ということがありました。私が調査した現状であります、やはり保育園における保育士の人員数は充足されていないと考えております。人材確保の施策として、白老町出身者で保育士を目指す人材の奨学金制度の確立、その可能性があるのか、所見をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 保育士確保に向けた奨学金制度の創設という質問でございます。保育士は、皆さんご承知のとおり全国的に不足している状況でございます、その要因としましては、業務量が多かったり、あとは責任が重い割には給料が低いなどと言われております。国としてもこれらのことを改善するために、待遇面であったり労働環境を改善する取り組みを行っております。ただ、今待機児童が都市部で発生しております、どうしても都市部で保育所の増設も進んでおります、そのために保育士が都市部に流れるというような、そういうような傾向がございます。議員がおっしゃられるとおり、奨学金の創設も

保育士確保には有効な手段かなと考えてはいるのですけれども、北海道で既に社会福祉協議会で奨学金制度を実施しております、その利用をしていただくということの周知を図りたいなということを考えております。また、経済的な支援だけではなくて、潜在保育士の掘り起こしなども視野に入れながら保育士確保の対策には努めてまいりたいなとは思っております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又です。本年3月に、総務省は関係人口の創出に向けてという報告書をまとめました。この関係人口は、地方が抱える人口減少問題に歯どめをかける施策として今後国が強化するものでございます。この報告書には、地域にルーツがある、要は白老町出身ですとか、白老町で育ったとか、そういった若者、地域にルーツがある若者をターゲットとした誘致策が効果的であると示されております。奨学金制度につきましては、先ほどご説明があったように本町の財政負担がなくても活用できるものでありますから、社会福祉協議会、他の制度を有効に活用するということがとても大事なことと私は考えます。それを踏まえて、大切なことは白老町出身者で保育士を目指す人材へのアプローチ、これが私にとってとても大事なのかなと考えるものでございます。この答弁の中に人口構造の是正に向けた人材誘致ということもありました。要は先ほどの病気になる前の予防策ではないですけれども、今のうちから打ち手を講じて、数年後に実を結ぶ取り組み、これは先ほど企画課長のほうからも人口減少をおくらせていくという答弁もありましたが、ぜひとも白老町出身者で保育士を目指す人材へのアプローチ、こちらについてのご検討をいただきたいのですが、所見をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 実際に保育士を目指している人がどれくらいいるかというのは現状として把握はしていないところでありますけれども、若い人が白老町に住み続けられるような対策としてアプローチ、いろんな制度の周知等もして、いろんな情報発信等をして、住み続けていただけるような対策は講じていきたいなと思います。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。これは、保育士だけの問題ではございません。白老町で育って、首都圏のほうに移住して今働いている方々もたくさんおられると思います。その方々が例えば定年後白老に帰ってくるような誘致策ですとか、ぜひそういったことも視野に入れて進めていただきたいと思います。

それでは、5点目、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる地域づくりについてであります。ある研究報告書には幼児期に大事なことは非認知的能力を育むことということが言われております。この非認知的能力とは意欲、自尊感情、対人関係、粘り強さ、自

己認識を言うものでありまして、心や社会性を育てることが重要とされております。一方で子を育てる親については、乳幼児期にお母さんが機嫌のよい状態にいられた子供はその後の育ちがよいということが判明しております。自治体がすべき施策として、この報告書にはこう書かれています。よいお母さんになるための支援ではなくて、お母さんが元気で機嫌よくいられるための支援が極めて重要であるということが提言されております。これからの自治体の子ども・子育て支援は、教育、保育の質を高める研修体制をいかに企画できるか、また家庭に対して手厚い支援をどのように行っていくかが課題になってくると私は考えております。人材が不足する中、これは札幌市においても上乘せで奨学金制度ですとか、そういう制度を構えていますから、人材の取り合いになるとそちらにはどうしても負けてしまう。でも、それはいたし方ない現状でありますから、いかに今の現状人員で質を高め手だてが大事なのか。それは、やはり環境であると思います。

以上を踏まえまして、私は町として白老町で働く保育士の皆さんが時間的にも心にも余裕がある環境づくりを進めるとともに、出産、子育ての希望をかなえる地域づくりを地域全体とともに学び合うことが重要と考えているものでございます。もう一度繰り返しますが、白老町で働く保育士の皆さんが時間的にも心にも余裕がある環境づくりについて、これを進める考えがあるかどうか、見解をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 渡邊子育て支援課長。

○子育て支援課長（渡邊博子君） 保育士の方が心に余裕を持つ環境づくりというご質問でございますけれども、まず保育を実践するためには保育士の専門性を高めることも必要でございます。各園では、研修などの参加には勤務を調整して参加していただいているところではありますけれども、議員がおっしゃるように今保育士が不足しているというような状況の中で、かわりの保育士がいなくて研修などに参加できないということも考えられるところでもあります。そのために、北海道でもビデオ会議システムによる研修やオンデマンド教材なども活用して研修などを実施しておりますので、そのような研修にも参加しながら資質を高めて、また心にも余裕を持つような環境づくりをつくっていただければいいかなどは考えてございます。また、北海道以外でも町でもそういうような研修の場というものもございますので、積極的に参加できるような日時の設定を心がけていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） ありがとうございます。よく理解できました。

それでは、続きまして3項目めの住環境施策の件でございます。空家等対策計画には空き家の利活用の例として5つの項目が記載されております。1つは人口減少対策関連、2つは地域福祉、子育て支援関連、3つには高齢者福祉関連、4つには観光振興関連、5つには芸術文化関連とあります。それぞれの着手状況についてどのようになっているのか、伺いま

す。

○議長（松田謙吾君） 下河建設課長。

○建設課長（下河勇生君） 今議員おっしゃられたとおり、計画におきましては5つの視点での利活用の例を掲げております。例えば人口減少対策関連では、移住、定住向けの活用としているところがございます。これは今取り組んでいかなければならないとは考えておりますが、まだまだ具体的には進んでいない状況でございます。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。このことはとても重要な問題だと思うのですが、建設課長がおっしゃった中では、計画の中では利活用の例、これは利活用としてこの5つの項目が出されておりますが、これは建設課だけで取り組むべきものではありません。ですから、この計画の中にもあるようにプロジェクトチームで進めておられますので、ぜひこれを血の通ったものにしていただく、計画から実行に移していただきたいと私は考えているものでございます。

その中で、少し切り口を変えてみますが、地域おこし協力隊の菊地辰徳氏が旧柏村旅館をホステルとして再生に取り組みまれています。本件は、観光振興のみならず移住、定住策、空き家対策にも相乗効果を生み出した好事例であると私は評価しております。また、9月に開催された飛生芸術祭、こちらに関連して言うとうイマムプロジェクト等を含めて約6,000名もの動員があったことを私はお聞きしております。国内外から芸術家が短期間滞在した事例もあり、今後は観光や芸術文化を入り口とした空き家対策が本町の地域活性化の起爆剤になると考えますが、見解をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ただいまのご質問でございます。観光という切り口で今ご質問がございましたので、私のほうから答弁させていただきます。

ただいま貳又議員からお話がありましたとおり、地域おこし協力隊の好事例をご紹介いただきましたが、地域おこし協力隊の皆様、白老町を外から見たときの着眼点でありますとか、あるいは感性、それから魅力の発掘、まちづくりに対する情熱、こういったものは非常に称賛に値するのかなと私どもも思っております。それで、空き家等の対策計画の中でお話ししますと、既存のストックをいかに有効に利用するかという観点からいたしましても、観光における活用の方策としては、今民泊を始められている方も多くございます。それから、古民家を改修してカフェとして営業されている方、こういったものは観光振興につながっていくのかなと考えておりますし、経済という大きな視点でいうと誘致企業の外国人労働者が社宅として住宅をシェアしたりですとか、あるいは福祉的な視点でいいますとグループホームといった、そういった活用につながっていくのかなと考えております。こういった既存ストックの活用が定住策につながっていき、ひいては地域の活性化につながると捉え

ております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。今一連のこの質問の中で高齢者の問題、それから空き家の問題、これは基本的に言われることは負の財産みたいな捉え方をされませんが、私は決してそうではないと考えます。高齢者の皆さんが多いということは、それだけ生きてきた経験、知恵がございます。金がない財政力が弱い白老町にあっては、この知恵をいかに活用していくか、これがとても私は大事だと思います。それからまた、空き家についても今数多くの空き家等がありますが、これは民泊の推進、先ほど藤沢課長からも答弁がありました、その活用によって、負が逆にプラスになるまちづくりのあり方が私はあると思いました。その中で、冒頭で示したように、少子高齢化対策、これは行政分野の多岐にわたるものであるということを確認させていただきました。今回町からいただいた答弁や地域課題の解決策は、まだまだ深化させなければならぬと思いますので、私は新たに策定される総合戦略を含め、継続的にその進行管理状況を確認してまいりたいと考えております。

私は、少子高齢化対策は役場各課全体での施策連携が重要であり、役場職員全員が問題意識を持ち、取り組んでいかなければこの危機的状況を打破できないのではないかと危惧しております。この危機的状況打破するのは、先ほども言いましたが、お金だけが全てとは私は考えておりません。私は、時には何事も恐れず立ち向かうチャレンジ精神、そして経験と知恵の結集が白老の未来に風穴を開けるものと確信しております。いにしへの偉人はこのような教えを残しております。一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いいかげんだと言いわけが出る。職員の皆さんは、本当に一生懸命頑張っておられます。しかし、その一生懸命さが個人個人では意味がないと私は考えております。出生数目標に届きませんでした。これは言葉が悪いかもしれませんが、報告だけではこれはだめであると私は感じております。民間組織であれば、目標に届かなければそれは給与にもはね返ります。自然に組織全体として目標を達成するために一生懸命になります。私は、職員個々人の一生懸命ではなく、よりよい政策を打つためのまち組織としての一生懸命を求めるものであります。危機意識が希薄にならない業務、事業の進行管理、職員の能力が発揮される環境づくりが重要と考えますが、理事者の見解をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） 少子高齢化対策という切り口から議員のほうからありました役場組織のあり方、そういうところまでのお話でございましたので、私のほうからは大項目1点目の総括的な答弁として申し上げさせていただきたいと思っております。

よく言われる、非常に変化の激しい社会状況、そして多様性、関係性が複雑に絡み合う課題が多い中で、少子高齢化においても議員がご指摘したとおり、個別の少子化対策をどうするかだとか高齢化対策をどうするかというだけの問題ではなくて、町民の皆様方が心豊か

に生涯にわたって自己実現を図っていくような、そういう持続可能な活力あるまちづくりを進めていくという、その観点から考えなければならない問題だと私自身も認識をすることであります。したがって、今ご提案もいただきました。それから、ご示唆もいただきましたけれども、どこかの課の1課の問題ということではなくて、全ての課、全ての職員が役場の職員としてのミッションをしっかりと持ちながら課題にいかにか正対して、知恵を出し、そして汗を流してそれを解決していくかという、今まさしくラグビーで言われているワンチームという言葉がありますけれども、ワンチームという体制のもとにそれぞれの職員が持っている能力を生かしながら、組織一体となって課題に対応していかなければならないと思っております。

そのためにも、議員がご質問の中でご指摘されたまちづくりの町民意識の実態調査の中でのそういう事実、それから人口ビジョンにおける乖離、それぞれまだまだほかのデータも含めてそういう状況をしっかりと受けとめ、そしてそれに対してどう対応していくかというところ、どういう政策を打っていくかというところをしっかりと持ちたいと考えております。そこで大事にしなければならないのは、政策の単発的な打ち方ではなくて、ニーズに合わせた政策のパッケージ化といいますか、さまざまな観点から一つの問題に対して総合的に施策を打ち出していく、そういうことをしっかりとこれから、今までも議員の皆様から政策形成のあり方についてご指摘をたくさんいただいておりますけれども、改めてこれからも町長3期目をしっかりと共生共創のまちづくりをしながら、町民が安心して暮らせるまちをつくるために職員一丸となって取り組みたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。次に、2項目め、本町の交流拠点施設のあり方についてであります。

（1）、旧社台小学校の2020年度以降における運用の考えについてお伺いいたします。

①、公益財団法人アイヌ民族文化財団が使用する期間は来年3月までとなっております、その後も継続的な利用を求めるとしていましたが、その状況とまちの考えは。

②、施設の全部または一部を地域に開放することで住民に貢献するコミュニティ活性化への転換を行う可能性は。また、旧社台小学校の将来のあり方について社台地区の住民と対話を重ねていく必要があると考えますが、まちの見解は。

（2）、仙台藩白老元陣屋資料館の今後のあり方についてお伺いいたします。

①、平成4年度及び平成28、29、30年度の入館者実績は。

②、本年11月末までの入館者数の累計実績及び今年度末の入館者見込みは。

③、本年9月に開催された企画展、木彫り熊展について実施主体とまちとしての位置づけ。また、来場者実績を踏まえたまちの評価と分析は。

④、令和2年度の入館者の目標数と入館収入額の目標額は。

⑤、令和2年度における集客策（イベントや企画展等）は。

⑥、内閣官房及び文化庁で策定する文化経済戦略にもあるように、民族共生象徴空間の関連施設として位置づけられている陣屋資料館や陣屋跡について、稼ぐ文化への展開としての施策が重要であると考えているが、まちの考えは。

（3）、虎杖浜アヨロ周辺エリアの整備についてお伺いいたします。

①、本年3月に虎杖浜竹浦観光連合会により、アヨロ鼻灯台周辺利用計画が策定され、まちに提出されましたが、その後のアヨロ周辺エリアの整備の進捗状況は。

②、アヨロ鼻灯台の文化的価値に対するまちの認識と灯台を存続とした意気込みは。

③、今後多くの集客が期待される中で、転落防止柵や階段修繕などアヨロ鼻灯台の受け入れ環境整備が急務であると考えているが、まちの考えは。

④、アイヌ政策推進交付金において、本町のアイヌ施策推進計画にアヨロ周辺整備に係る関連事業が盛り込まれているのか。盛り込まれていないのであればその理由は。

以上についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 本町の交流拠点施設のあり方についてのご質問であります。1項目めの旧社台小学校の2020年以降における運用の考え方についてであります。1点目の公益財団法人アイヌ民族文化財団の使用期間終了後の継続的な利用を求めていくことについてであります。旧社台小学校は現在公益財団法人アイヌ民族文化財団による民族共生象徴空間「ウポポイ」開設に向けた準備拠点として、博物館の展示物等の資料の収蔵、体験交流ホールや工房などで実施される体験プログラムの制作や実演を行う職員のレベルアップを図るためのトレーニング活動の場として活用されているところです。来年度以降については、収蔵庫は継続して使用したい旨の意向を聞いているところですが、町としていたしましては現状のままウポポイのバックアップ施設等として継続して活用いただくよう国へ強く要望しているところです。

2点目の施設を地域に開放し、コミュニティ活性化へ転換を行う可能性及び旧社台小学校の将来のあり方についてであります。今後の利活用方法について現在の使用者であるアイヌ民族文化財団の来年4月以降の使用法やこれまでの議会での議論を踏まえ、地域のニーズを把握し、スポーツやレクリエーションにおける活用なども視野に入れながら幅広くさまざまな方策を検討していきたいと考えております。

2項目めの仙台藩白老元陣屋資料館の今後のあり方についてであります。1点目の平成4年度及び28、29、30年度の入館者の実績についてであります。4年度は7,898人、28年度7,213人、29年度5,057人、30年度5,413人となっております。

2点目の本年11月末までの入館者数の累計実績及び今年度末の入館者見込みについてであります。入館者は6,962人で前年比2,788人の増であります。また、今年度末の入館者に

については、昨年同様に推移すれば8,200人程度を見込んでおります。

3点目の本年9月に開催された企画展、木彫り熊展について、実施主体と町としての位置づけと来場者実績を踏まえた町の評価と分析についてであります。「白老の木彫り熊とその考察展」は、ウイマム文化芸術実行委員会と共催し、当時の様子を再現しながら白老町にゆかりのある職人たちの作品を140点展示しました。15日間で1,182人の来場者がありました。資料館にとりましても、民間団体との協働による開催は多くの知見を得るとともに活動の幅が広がり、多くの集客につながったことから、次年度におきましても同団体との連携について計画してまいりたいと考えております。

4点目の令和2年度の入館者と入館収入の目標数、額と5点目の令和2年度における集客策については関連がありますので、一括してお答えいたします。2年度の入館者目標数は今年度の実績を踏まえ8,300人を想定し、入館料収入額も100万円以上を見込んでおります。主な集客策といたしましては、ウポポイ開設に時期を合わせて第10回刀剣展「北海道現代刀工4人展」を、夏には「カムイ・ニューカラ木版画展」を、秋には「木彫り熊展」などの展示会を開催する計画であります。また、「こどもの日企画」や「陣屋の日」など従来行っている陣屋跡積極活用プログラムにつきましても、各種団体と実行委員会組織を持ちながら趣向を凝らした体験事業を実施し、町民に親しまれる博物館施設としての活動を大きく展開してまいります。

6点目のウポポイの関連施設と位置づけられている陣屋資料館や陣屋跡における稼ぐ文化への町の考え方についてであります。現在作成中の保存活用計画に基づいて、陣屋資料館や陣屋跡の文化財を歴史的な価値だけではなく魅力ある観光資源としても位置づけ、交流人口の増加につなげてまいりたいと考えております。

3項目めの虎杖浜アヨロ周辺エリアの整備についてであります。1点目のアヨロ鼻灯台等周辺利用計画策定後のアヨロ周辺エリアの整備状況についてであります。利用計画では自然景観を生かした眺望の場やアヨロ海岸、遺跡を結びつけた散策ルートなどの整備やアヨロ鼻灯台を含む周辺を観光拠点として活用することなどが盛り込まれておりますが、財源確保の課題など整備が進んでいない状況であります。今後においては、虎杖浜竹浦観光連合会や4月に設立されたアヨロ鼻灯台周辺保存会の協力をえながら周辺整備について検討してまいりたいと考えております。

2点目のアヨロ鼻灯台の文化的価値に対する町の認識と灯台を存続するとした意気込みについてであります。アヨロ鼻灯台については昭和51年の開設以来、約40年間にわたり漁業者の安全を守り、白老町の漁業振興に大きく寄与するなど、虎杖浜を象徴する施設であり、周辺の虎杖浜第1遺跡やアヨロ遺跡などの埋蔵文化財包蔵地が数多く点在しており、貴重な文化財の宝庫として捉えております。また、全国的に見て灯台廃止が進む中、存続した事例は数少なく、今後も観光拠点としての利活用を図りながら文化財保護に努めてまいりたいと考えております。

3点目の転落防止柵や階段修繕などの環境整備についてであります。環境整備についてはアヨロ鼻灯台周辺保存会を中心に周辺清掃や草刈りなどが行われております。今後については、来春オープンする民族共生象徴空間ウポポイと連携し、虎杖浜地域への回遊性や集客力向上につなげるための一つの拠点として実現に向けて努めていく考えであります。

4点目のアイヌ施策推進地域計画におけるアヨロ周辺整備については、地域計画においてアヨロ周辺の整備は明記していませんが、本町におけるさまざまな課題の一つとして各観光スポットを周遊していただくための環境、体制整備を掲げております。アヨロ周辺については、アイヌ語地名やアイヌ民族に関係する遺跡が多くあり、魅力ある観光資源となる可能性を秘めていることから、今後5年間の計画期間の中で必要に応じて検討いたします。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。旧社台小学校の運用の考えについて再質問させていただきます。

2020年度以降の利活用は、まだ不確定な部分があるというところを確認させていただきました。122年の歴史、この幕を閉じた社台小学校であります。やはり白老町の宝であり、多くの人々の心のふるさとであります。社台地区には、社台地区町内会連合会と社台まきば会が連携し、社台小学校閉校における地域力の向上と子供たちの健やかな健全育成を図るために、地域行事に大人も子供も多く参加し、地域活性化が図られているところでございます。今旧社台小の利活用についてまだ結果が出ていないというところでいきますと、町民の皆さんはとても不安でならないのかなと考えております。その不安を払拭するためにも活用策について一刻も早く活用についての考えを出していただきたいと考えますが、いつまでにその結論を出すのか、見解をお聞かせください。

○議長（松田謙吾君） 三宮アイヌ総合政策課長。

○アイヌ総合政策課長（三宮賢豊君） まず、社台小学校の活用についての今後の活用の方法についていつまでという部分ですが、まず1点目でお答えしたとおり、実際に今確定しているものはございません。ただ、情報として収蔵庫の部分は継続して使いますという部分は言っておいております。実際今後どのように使うかという部分につきましては、まずは我々としましてはあくまでも財団が継続して使っていただきたいというところを強く国のほうに要望していたところです。それがかなわなかった場合には、お金をかけて整備しましたところですし、ただあけておくということにもならないかと思っておりますので、その際には、今まで議論の場としては、アイヌの人たちの研修の場とか、そういうので使ってもいいのではないかとかというご意見もいただいておりますし、地域の方も基本的には社台生活館なんかも使っていただいているいろいろやっていたいただいているところですが、学校のほうを使いたいということであれば、そういうことも含めて、いろいろな国の状況がわかった時点でそれは次の方策を検討していきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。アイヌ民族文化財団の思い、それからアイヌの方々の思い、これはわかります。ただ、もう一つ、社台の町民の方々の思い、これもとても私は大事だと考えます。ぜひそのことも踏まえて検討していただきたいと思えます。所見をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 工藤企画課長。

○企画課長（工藤智寿君） こちらは、アイヌ民族文化財団に使用していただく前には学校の跡地の活用ということで企画のほうで担当しておりましたので、その部分については私のほうから答弁させていただければと思いますが、今三宮課長が答弁したとおり、まずはアイヌ民族文化財団に使っていただくということで、これは整備をしているという関係もございまして、こちらについては以前から強く要望しておるところでございまして、こちらをまず進めていきたいという考えに変わりはありません。ただ、議員からご指摘があったとおり、さまざまな方たち、当然地元社台の方たちの思いということも十分聞き入れた中で、今後の方向性がある程度見えてきた段階では耳を傾けて計画していかなければならないのかなとは捉えてございます。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。わかりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

2項目めの仙台藩白老元陣屋資料館の今後のあり方についてであります。1点目の入館者実績と2点目の今年度末の入館者見込みについてお示しいただきました。私は1点目で平成4年度の入館者数と言ったのですが、これは何の意図があったかということ、アイヌ民族博物館が一番入場者がピークだった年、実はこれは平成4年ではなくて平成3年でございます。申しわけございません。平成3年は、アイヌ民族博物館は87万1,000人あったのです。それで、仙台陣屋資料館は、平成3年、4年度はで8,000人ですとか7,000人、この推移だったのです。ですから、私がここで検証したかったのは、いかにウポポイから仙台陣屋資料館のほうに誘導するかということでのご質問でありました。

3点目の企画展、木彫り熊展につきましても、ウイマム文化芸術プロジェクトの連携、これはとても画期的な取り組みであると私は評価しております。ただ、そのような中で、4点目の来年度に向けた入館者の目標数値8,300人、それから、入館料収入ですか、100万円、これは低いと私は感じました。仙台陣屋資料館のピーク、これを見ますと昭和60年、1985年が1万2,232人というのがピークでありましたから、まずはこれ以上の目標を設定すると。それから、この入館料は個人一般で300円であります。ウポポイからの動線で想定100万人のうち、1%でも各獲得できたら1万人なわけでありまして、1万人獲得できれば、大人であれば

300万円の入館料の収入となるものであります。ぜひ私は、8,300人ということではなくて、これは3万人でも5万人でも、そういった目標値を示していきたいと考えますが、見解をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 実は今答弁しました来年度の目標人数とか目標収入額については、私も武永参事と相談をいたしまして、具体的に何をよりどころにこの数字を出していくかというところで大変悩みました。思いとしては、今貳又議員がご指摘いただきましたように、決して8,300人で満足するような、そういうような考えはございません。これは、もっととどンドン、とどンドン1万、1万5,000とふやしていきたいとは思っておりますが、当面まず今年度の大きくふえた実績を押さえながら、ここは最低値として押さえようと。ここからあとどれぐらいふやしていけるか、これは来年度、教育委員会を含め資料館の努力、あるいは関係団体との協力、こういったことが実を結んでふえていくのだらうと思っておりますので、目標値としては中身としては本当はもっと高いのですけれども、とりあえずご答弁としてはこのような数字で答弁をさせていただいたということでご理解をお願いしたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。今私が感じるに、仙台陣屋資料館、まず入り口ドアが重たい。これからは、やはりバリアフリーです。障がい者の皆さんもきちんと受け入れる。これは、もちろん共生のまちづくり、これに通ずるものだと私は感じています。それから、これからウポポイが開設されると、冬季間、ここもお客さんは必ず来ます。であれば、陣屋資料館の駐車場は冬はなかなか除雪体制、これが整っていないと私は感じます。ですから、そういった部分で自助努力で収入を得て、そういったところの環境整備にぜひ充てていただく、そういうような取り組みを私は望むものであります。

そこで、ウポポイが来年4月24日にオープンを迎えるに当たり、今後重要なことはウポポイと資料館をどうつなげるかであります。先ほど1項めでもいろいろ議論させていただきましたが、金がなくても知恵で何とか打破できる、こんなような方策があるのではないかと私は考えております。そこで、本資料館のエリアは象徴空間の関連区域でもあります。私からの提案であります。今後国が作成するウポポイを紹介するパンフレットの中に陣屋資料館、白老仙台藩陣屋跡、これを掲載させていただくことでさらなる相乗効果が図られると考えますが、いかがでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 武永生涯学習課参事。

○生涯学習課参事（武永 真君） 施設の老朽化、それとパンフレットへの掲載というようなお話でございました。老朽化につきましては、昭和59年の開館ですので、ことしで36年目になっております。やはり暗いですとか、いろんな声が入館者から出るようになっておりま

す。まず、うちとしましては、来年度は多分入館者がふえるだろうと、ただ待っていても入館者はふえないものと思っておりますので、ことし同様さまざまな展示会ですとか事業ですとか、そういう取り組みを積極的に行って、一人でも多くの方を受け入れ、そういう人たちが満足して帰っていただけるような、そういうような施策を打ちたいと思っておりますし、また資料館の友の会、受け入れのおもてなしの先頭に立つ方々ですけれども、現在6人ですが、その中で結構ふえているように感じております。そういう方々も導入した中でしっかりと受け入れていきたいと思っていて、その中で資料館は白老町の観光施設なのだという、文化財のただ保存だけではなくて観光施設なのだというようなところもまちの中で大いに共有した中で、その後資料館の改修ですとか、リニューアルですとか、そんなようなことを図ってまいりたいと思っております。

また、後段のパンフレットへの掲載につきましては、既にウポポイの本体、アイヌ文化財団ですとか国立博物館のほうに一応依頼はしているところでございます。いずれにしましても、これからつくっていくというようなことですので、検討させていただきますというようにお言葉をいただいているところでございます。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ウポポイからの回遊性を高めるという意味で私のほうから補足させていただきたいと思っております。

現在ウポポイ来場者目標100万人というところを目指している中で、仙台藩元陣屋資料館というのは歴史を学んだり、一つのまちの大きな観光施設であると捉えております。今駅北にできます観光インフォメーションセンターの情報発信機能をフル活用させて、何とかウポポイから仙台陣屋のほうに送客するといったようなことも考えております。具体的に申し上げますと、レンタサイクルの周辺マップの中にウポポイから陣屋に行くようなコースを紹介するですとか、そういったことも行っていきたいと思っておりますし、もう一つは、ウポポイ自体はアイヌ文化を学ぶ施設であり、仙台藩元陣屋資料館についてはアイヌ文化と陣屋を築いたときの和人の融合というところでいうと、そういった歴史を学べますといったようなところもご紹介、PRしていきながら回遊性を高めていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。理解できました。

6点目の稼ぐ文化への展開についてでございます。こちらは、今国が2020年オリンピックを迎えるに当たって世界の方々をおもてなしをする、文化財施設は観光とうまく連携しながら稼ぐ施設づくりをしなければならないというところ、こちらのほうに方向が向いております。そのような中で、今現在DMOを目指す観光協会との連携、これが必要だと私は考えております。例えばウポポイと陣屋資料館の共通チケットの販売等は可能性があると考えますが、これは今現在でどうのこうのという回答はなかなか難しいとは思っておりますが、そ

の所見をお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 三宮アイヌ総合政策課長。

○アイヌ総合政策課長（三宮賢豊君） 陣屋との共通チケットの販売の可能性なのですが、我々の知っている限り、ウポポイ側といいますか、アイヌ民族文化財団から発表されているのは、まだ料金体系としましては一般的な料金体系だけでございまして、その他の割引料金であるとか、学校の体験料金などははっきりはまだ決まっておりません。チケットの形態、その辺についてはまだはっきりわかっていませんので、もし機会があればそういうことも提案していきたいなと考えております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。ぜひ実現に向けて進んでいただきたいと思います。

それでは、3項目めの虎杖浜アヨロ周辺エリアの整備についてでございます。まず、確認をしたいのですが、来年は虎杖浜の温泉エリアにて全国温泉サミットが開催予定であるということをお聞きしておりますが、こちらは事実でございますでしょうか。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） 全国温泉サミットに関してのご質問でございます。今貳又議員からお話がありましており、来年の8月に当町で全国の温泉サミットが開催される予定となっております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。8月に温泉サミットが開催されると、その中で規模的には何名ぐらいの方々が来られるのか、そちらはわかりますか。全国温泉サミットですので、かなりのお客様が来るのかなと私は思うのです。そこで、3点目の転落防止柵など環境整備に関連しますが、私は温泉サミットまでに整備すべきと考えますが、所見についてお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ただいまのご質問でございます。まず、どれぐらいの規模感かというところで申し上げますと、開催地が持ち回りということになっておりまして、ことしは、来年は白老町が開催地ということで今回町長を含めてサミットのほうに参加させていただきました。その規模感でいいますと、大体100名ぐらいの参加になるのかなと考えておりますので、一つの宿で対応するのは少し難しいのかなとは思っておりますが、想定しているのは虎杖浜地区の複数の宿泊施設で開催を予定したいというところで進んでおります。お話があったアヨロ鼻灯台の部分につきましては、これはやはり我々としても一つの大きな観光施設と捉えております。あの灯台から眺める太平洋の眺望というのは非常に美

しいものだと思っております。ただ、最初の町長のご答弁にもあったとおり、昨年度策定した利用計画につきましては規模的には少し大きなものになっておりますので、この財源をどうするかということと計画自体もどういった財源を使うかも含めて、事業自体をもう少し圧縮しないとならないのかなとは考えております。当面は、お話あったとおりまず整備は行いたいというのは気持ちとしてはあるのですけれども、やはり先行しないとならないのは安全対策ということから鑑みますと、転落防止策というのは講じていきたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。1点目の今回ご答弁いただいた中では、財源確保の課題など整備が進んでない状況であると。私は、財源確保は難しい状況を捉まえて、アイヌ政策推進交付金の活用を提言しているものでございます。また、3点目の転落防止柵などの環境整備では実現に向けて努めていく考えでありますという答弁。それから、4点目の最後のほうには、今後5年間の計画期間の中で必要に応じて検討いたしますという答弁でございました。この答弁を、私の解釈であります。整備しないというようなことを言っているようなものであると私は感じているところでございます。そこで、4点目の必要に応じて検討というところがありますが、これは虎杖浜の皆さん、保存会や観光連合会の皆様、これは必要というか、大事なものであり、これから振興策をしたいのだという計画が出ているので、これは私は必要に値するものだと考えております。いかがでしょう、見解をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 三宮アイヌ総合政策課長。

○アイヌ総合政策課長（三宮賢豊君） アイヌ政策交付金を活用しての整備であるとか、計画に盛り込んでいるかどうかという部分でございますけれども、基本的に政策推進交付金につきましてはアイヌ施策地域計画に盛り込んである事業が交付金の対象になるということでございますという状況の中で、現在の地域計画においてはアヨロの周辺整備ということは明記してはおりません、1答目で答えているとおり。というのは、基本的にアイヌ政策の推進交付金なものですから、アヨロ鼻灯台の整備ということではちょっと交付金の趣旨とずれてくるというようなことを私は感じております。そういう中で、ただ地域のほうでいろいろな活動があるというような情報も聞いておりましたので、計画としてはアヨロ鼻とは直接書いていませんけれども、各観光スポットを周遊いただくための環境整備、環境体制整備というような表現もしまして、後には活用できるような方法も探れるようにはしておいたというつもりでございます。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又でございます。ちょっと答弁さかのぼりますが、2点目

の答弁の中では、アヨロ鼻灯台のみならずというような表現でございます。虎杖浜地区は、アイヌのいろいろな伝説等がございます。ですから、私は、申しわけございません、辛口になるかもしれませんが、これは総合行政をもって、アイヌ総合政策課の切り口はわかりますけれども、観光の切り口もある、文化財の切り口もある。その中においてトータル的に総合的に考えなければならないと思うのです。ですから、私はアイヌ政策推進交付金にこれはまさしくはまるものだと考えておりますので、これはぜひ実現に向けて検討していただきたいなと思います。所見をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） ただいまのご質問でございます。私どもも、今お話があったとおり後ろ向きということではなくて、ここのエリアとしては観光資源として整備をしていきたいという思いは思っております。ただ、少し遠回し的なご答弁もあったかもしれませんが、先ほどお話ししたとおり、もう少しその計画自体を圧縮するですとか、練り込みがもう少し必要なのかなと考えております。当然ながらエリア全体はほとんどが民有地でございます。そういったところでいきますと、所有者との協議も必要でしょうし、あるいは虎杖浜竹浦観光連合会、あるいはこのたびできた保存会も含めて、どこまで整備をするかといったところをまず1つ目標として持ちたいなど。そういった上で、アイヌ政策推進交付金のはまるかどうかというところもあわせ持って、もう少し時間をいただきたいなというところでございます。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） 今課長のほうからお話しさせてもらったとおりなのですが、決して、答弁書に書いてはありますけれども、必要に応じて。では、必要がないのかという意味ではございませんので、非常に重要なところと我々は考えていますので、ただもう少し時間をいただいて整理したいものもあるということなので、時間をいただいた中で整理をさせてもらって進めていきたいと考えています。

○議長（松田謙吾君） 4番、貳又聖規議員。

〔4番 貳又聖規君登壇〕

○4番（貳又聖規君） 4番、貳又です。こちらの2点目で灯台を存続するとした意気込みも確認させていただきました。こちらは、当初から灯台のみならず、この周辺エリアというところはずっと進んできたものでございます。その意気込みがあれば、この答弁の必要に応じてというのは私からしてみると少し薄っぺらい感じがしたものですから、先ほどの質問になりました。

それで、最後の質問をいたします。ウポポイが開設される中で、行政面積が横に長い本町は各地域ごとにその関心の温度差があります。ウポポイが開設される白老エリアよりも竹浦、虎杖浜エリアにお住まいの住民の皆さんの関心度がやはり低いということが明白であります。本日いただいたご答弁は、アヨロ鼻灯台保存会の皆さんや虎杖浜竹浦観光連合会、

それから関係者の皆様にとっては、私はどうも納得できるものではないのかなと考えております。そこで、町長は所信表明にて5つの輪を基本とした政策展開を行うとしております。その5つのうちの4つ目には、地域資源で活力を生み出し、循環させる輪、5つ目には対話を通してみんなが参加できる輪とありました。私は、住民の方と本当の意味での対話、これをしながら磨き上げる観光地、まちづくりがやはり大事なわけであると考えております。

ある本州の離島ですが、猫島と言われるような島があります。猫がたくさん生息する島がありますが、そこは住民の皆さんは猫を神様として扱うわけです。いじめることはないです。そうすると、猫をいたわる気持ち、その気持ちにお客様、来訪者がたくさん来るわけです。要はお金で整備するというものではなくて、その心にお客様、来訪者は感動するわけがありますから、私は逆行するかもしれませんが、政策推進交付金を使ってお金、お金ということもありますが、皆さんの白老町民の心、これをきちんと表現することが大事と考えております。その中でこの5つの輪、これはとても大事だと私は思っております。ですから、5つの輪をもって旧社台小学校の活用、それから虎杖浜アヨロ周辺エリアの整備、これをどのようによい方向に向けていくのか、最後にこのことを伺って私の一般質問を終わりたいと思います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 私の公約の輪のお話が出ましたので、私から答弁をさせていただきます。

まず、旧社台小学校の跡地の件なのですが、私が社台地域の方々と対話をしたときには、廃校が決まって、できれば道の駅のようなものとか、活用を社台の人たちでやりたいというお話がございました。どういうことができるのかというお話もしていましたし、実際にお金がかかって現実的にどこまでできるかわからないというお話もあって、その中で社台の方々の思いというのは、このまま何も使わないで廃校になるのだけはやめてくれというのが一番の強い願いだったわけでございます。今は国の力を借りて旧社台小学校を使っただいておりますので、最低限そこは要望を出して引き続き使ってもらうようにまずは努力をしたいと思っております。

それと、竹浦、虎杖浜地域のウポポイに関する関心度のお話もありました。確かに向こうのほうに行くと、ウポポイは私たちには関係ないというお言葉もありました。ただ、ここ数年前から、ウポポイの4月の開設に向けて現実的に日に日に迫ってくると関心度も少しずつ上がっているなどは感じております。まだまだPRしなければならないのは重々わかっていますが、特に浜フェス等々ではウポポイの宣伝もしていただいたり、虎杖浜の方々もウポポイの経済効果を期待している部分も出てきております。その中で地域資源を考えますと、アヨロ鼻灯台やあの地域のアヨロ遺跡、アイヌ地名の遺跡もありますので、ここは白老町の西側の観光資源としては非常に大切なものであり、魅力的なものでありますので、この

辺の整備はさせていただきたい。ただ、整備をするのにも計画を持ってきちんと段取りよくやっていかなければならないのと、虎杖浜竹浦観光連合会の方々ともこの件でお話しすると、自分たちで今何ができるのだというところも連合会の中でも話し合われておりますので、その辺は連携をとりながら、計画を立てて次のステップに進みたいと思っておりますので、決して後ろ向きではなく、虎杖浜にもきちんとウポポイから周遊させる仕組みづくりを私たちも責任を持って取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（松田謙吾君） 藤澤経済振興課長。

○経済振興課長（藤澤文一君） 先ほど源泉かけ流し全国温泉サミット、私は8月と申しましたが、7月の16から18日ということで訂正させていただきます。申しわけございません。

○議長（松田謙吾君） 以上で4番、貳又聖規議員の一般質問を終わります。